

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33番地108		
自己評価作成日	平成21年12月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりご自分の家だと思っただき、利用者・職員とともに楽しんで生活ができる場をつくり、「生きる喜び」「生きる意欲」がしぼまない笑顔あふれるホームづくりをめざしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内から広々とした中庭が見え室内にいても圧迫感がなく開放された気分になりまるで自宅から庭を眺めているようで心が洗われます  
代表者が職員をととても大切にしてくれるとの事で職員は利用者に対して自然体な対応ができています。家族の面会も多く、意見交換することで協力体制ができており医療関係との連携もしっかりとれていて医師が利用者一人ひとりのことを親身になってくれていることが十分伝わってきました

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年3月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で定期的に理念について話し合い、意見交換をし意識して行動できるようにしています	職員が意義を理解するために常に意見交換をし、理念に基づいたケアの実践が出来るように管理者・職員も共に努力をされていました。	理念を元に一人ひとりの職員が利用者から必要とされる存在となり笑顔を忘れないで質の高いケアを目指してほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事の参加や学校行事に参加しています	地域の小学校の音楽発表会に参加したり、地域行事にも積極的に参加されて地域との日常的な交流ができていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事に参加しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を通して、ホームでの取り組み内容・課題や役割についての話し合いをしています	「ホームを知ってもらおう」との目的で町内会長とも話し合っている。なかなか市職員、地域包括の方に参加してもらうことができないようである。参加していただくようには施設として努力はされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期報告をしています	市からFAX送信してきたものは返信している 困り事があれば電話相談することはある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目指すケアを実現するため勉強会を行い、意識を高めています	事業所内で勉強会を開催し、身体拘束・虐待に対する認識を持ったケアに努め尊厳を心掛けたケアが実践されていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止に関する勉強会を行い、注意を促し、防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な成年後見制度等について勉強会を行い、御家族から質問があれば制度の説明をして活用できるよう支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得いただけるよう十分な説明に努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話相談や面会簿に意見・要望等を記入していただき、ご指摘いただいた点を話し合い改善に努めています	グループホーム内の状況・状態をこまめに家族に報告し意見を出していただきやすい環境に努めておられました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や定期的に個別面談を行い反映できるよう努めています	代表者・管理者・職員の関係が非常に良好で会議でも意見を発言しやすい環境のようでした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や現場に出て状況把握をし、また話し合いの場を設けています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を行ったり、外部研修への参加、業務中の個別指導を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加して、意見交換を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを聞き、安心して過ごしていただけるような環境づくりができるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「くらしの情報」を取り入れ御家族の思いに添えるように、しっかり話しをする機会を持つようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時にしっかり話を聞いて、サービスの必要性を話し合い対応するようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行いながら話し合うことで、人間関係・信頼関係を築くようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で詳細な情報を御家族と話し合う機会を持ち、本人を共に支えていく信頼関係を築くようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行ってきた趣味や生活リズムを継続できるように配慮し、馴染みの方からの手紙や来訪が継続できるように努めています	家族の面会もよくあるようです。ご近所の小学生が学校からの連絡も定期的に届けてくれるなどの交流ができています。	近隣との関係をもっと深め来訪者が利用者にとって楽しみ喜びそれが刺激となるよう場面作りに努めてほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士の人間関係を理解し、共通の話をしたり、一緒に家事を行っていたき関わり合いをもてるように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も自宅等への電話や手紙で現状を尋ねたり、相談に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面談やコミュニケーションを通して得られた情報や今後の意向を把握できるよう努めています	ご本人だけのケアにとどまらず家族も含めたケアへの思いを大切にされていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談やコミュニケーションを通して情報を得たり、生活史を記入していただき把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	話を聞いたり、表情から読み取り現状把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員から意見を聞き、本人、御家族の意向も踏まえてカンファレンスを開き、話し合いを行い介護計画を作成しています	家族には現実を伝え「できること」「できないこと」をはっきり言っている、またモニタリングを含めて相談を、必要に応じての対応ができていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日チェック表にて実践チェックを行い、モニタリング時に話し合いをしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物等の宅配サービスや往診を利用しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のボランティアの方の訪問理容や演奏を行っていただいたり、近所へ外出し四季を楽しむことができるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医との関係を大切にしています。また、利用者の方が認知症であることも考慮し、ホームのかかりつけ医には往診を受けられるように支援しています	内科が週2回、心療内科は2週間1回それぞれが往診に来てくれている両方の医師が積極的であり、医師同士の連携もしっかりできている。 利用者のかかりつけ医については家族で対応しているようです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診ファイルを作成し、状態を適切に伝えるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護連絡表を作成し、情報提供を行い、退院時には電話連絡等を行い情報の共有を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な勉強会を行い、御家族との十分な話し合いを行い、対応を全職員で検討しています	重度化に向けた対応は、見取りの経験もあるので、しっかりとできていました。職員の技術面だけでなく、精神面のサポートも十分できていました。特に、主治医を中心とする誠の良い関係に裏打ちされた対応が実践されていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修参加やホーム内での勉強会を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています	消防署との連携は十分ではないが、訓練等は実施されていました。	二次災害があることも想定して利用者が混乱なく避難できる様に全職員が身につけ意識づける、また町内会長を中心に近隣との関係を日頃から大切にする。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけのときは、職員から決めつけず自己決定できるように声かけを行うようにしています。特に尊厳とプライバシーを守るように配慮しています	声かけをするときは大きな声で言わない様に心掛けている、また新人職員に対しても教育している。	利用者の生活歴をしっかり把握し一人ひとりの性格に合った対応を心がけ、共に共有・共感できるように働きかけていく。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がけのときは、職員から決めつけず自己決定できるように声かけを行うようにしています。買い物や食事など希望にはできるだけ添えるよう対応しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など一人ひとりの状態・希望に合わせた生活を送っていただけよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に使う物や普段着は勿論、外出時は特別におしゃれができるように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を収穫したり、好みのものを取り入れられたり、一緒に作ったりすることで、楽しみながら食事ができるよう支援しています	食事は人の手を借りない様にと自力摂取が困難な方でも一生懸命自力で食べられており食を大切にしたり取り組みができています。季節の野菜など近所家族の方からのお届けがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好物を取り入れ、調理等工夫を行い一人ひとりの状態に応じた支援をしています問題や変化があれば話し合いをしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、一人ひとりに適したケアを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの表情や行動から読み取り、なるべくトイレでの排泄ができるように支援しています。やむを得ず、おむつを使用されている方にはその方に合ったもの選ぶようにしています	一人ひとりの排泄パターンの把握はできておりその時の状況に合わせた排泄介助を行っている、今現、排泄について問題はない(おむつ者2名あり)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを把握し、水分補給や運動を取り入れ便秘予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、その都度声かけをして一人ひとりに添った支援をしています	入浴は家族からの要望もあり週3回の入浴、毎日入浴される方もありその人に合わせた入浴方法をとっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を把握し、日中の活動量を増やしたり、生活リズムを整えて安眠できるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師とのコミュニケーションを通して、全職員は薬の情報共有・理解し、症状の確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の経験や知恵を発揮できる場を支援したり、趣味や得意な事などを取り入れ、一人ひとりに合った役割分担をして支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに希望を聞き、買い物・外食やドライブをして楽しんでいただけるように支援しています	おやつを持参して公園へ行ったり、介護度の高い方にもその人の状態に合わせた支援をしている。 外出支援は職員が積極的である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	精算時に本人がお金をお店の方に渡していただくように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望を聞き、あらかじめ先方の方に聞いて電話連絡可能時間内で連絡したり、手紙のやり取りができるように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を貼ったり、季節のものを飾ったりするようにして、居心地のいい空間を作るように努めています	リビングからは中庭が見えキッチン是对面式になっておりカウンターもあり利用者一人ひとりの表情を観察することができ見守りがしやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ではソファーを使用したり、お庭を眺めながらデッキの椅子に腰をかけて独りの空間を持てるよう支援したり、気の合った方同士くつろげるような環境づくりの工夫をしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持参していただいたり、物の配置や模様替えも利用者の希望・好みを取り入れながら居心地よく過ごせる工夫をしています	各居室は一人ひとりの個性が演出されており家庭と同じような環境でプライバシーも守られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに必要なものを取り入れ、状況が変化すればその都度話し合いを行い対応しています		